

鈴川の

馬車鉄道

平成十年三月五日号

明治から大正時代、鈴川駅（現在の吉原駅）から富士宮市の大宮町に「馬車鉄道」が通っていました。

今回は、当時の人々の貴重な交通機関の一つだった「馬車鉄道」を紹介します。

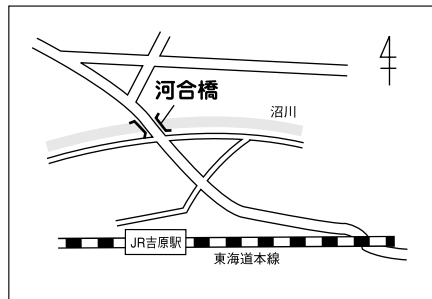
鈴川駅を起点として吉原、伝法、入山瀬を経由して富士宮市大宮町に至る「馬車鉄道」が開通したのは、東海道線鈴川駅が開駅した翌年の明治二十三年でした。

「馬車鉄道」は道路に敷いた線路の上を馬

車で人や荷物を運ぶ、当時の最新式交通機関でした。

人なら十人くらいが乗れる箱型の車を馬が引く乗り物で、その馬を手綱で操る人を「別当べっとう」と呼びました。そして、ところどころに「すれ合い」という馬車が相互に行き交うために四本の線路を敷いたところがあり、手を挙げて合図をすれば、途中でどこでもとめて乗り降りができる便利な乗り物でした。

また、客車だけではなく、郵便物などを運ぶ郵便車もあり、物資の運搬にも利用されていました。その利益は、明治三十八年の半期だけで旅客、貨物を合わせて千七百七十五円



という記録が残っています。一区间二銭ほどの当時としては、大変需要があったことがうかがえます。

しかし、当時の人々の重要な交通機関であった馬車鉄道も、富士身延鉄道の開通など、文明の進歩とともに大正時代の末に廃止されました。

◀河合橋の上を歩く馬車鉄道

(明治三十五年)



◀現在(平成十年)の

河合橋



吉原駅北口でお店を営む

稲垣恒男つねおさん(鈴川町一)

当時「馬車鉄道」はみんなの「足」で、だれもが利用していました。今のライトバンより少し大きくて、十〜十五人の人が乗れましたね。長い腰かけが両側にあって、そこに座れない人はその間に立っていました。乗り心地は、悪くなかったですね。馬車の速さは人が軽く走るくらいでしたから、馬の隣を走ったことがありますよ(笑)。

明治三十三年ごろ、津波のために鈴川駅は今の吉原駅のあたりへ移動しました。当時は駅に「表富士登山口」という看板があって、富士山へ登る人が富士宮まで行くのに利用していました。

今ではこのあたりもすっかり変わり、あのころがとても懐かしいですね。